

### 第3回 伊東市津波対策川奈地区協議会議事録

場 所：川奈区民会館

日 時：平成 28 年 6 月 24 日（金）19:00～

出席者：地元役員・関係団体 10 名、県関係者 10 名、市関係者 3 名

#### 1. 挨拶

挨拶



## 2. 熱海土木事務所から説明

- ・ 今まで地区協議会の振り返り
- ・ 配付資料についての説明



### 3. 伊東市から説明

- ・ 災害に対する取り組みの説明
- ・ 避難計画の策定についての説明



#### 4. 話し合い（ワークショップ）

- ・資料 1 により、第 2 回地区協議会において出された、地震・津波発生時に想定される課題と対応策を確認します。その際、ハード対策の方針（護岸整備はしない）も確認します。
- ・資料 1 を見ながら、地元としての意見をまとめていくため、資料 2 を使い、数グループに分かれて意見を出し合ってください。
- ・グループワークの内容は、
  - ① 対応策の抽出（新規アイデアも）
  - ② 対応策の具体化（具体的な避難ルートの特典など）
  - ③ 優先順位（短期的対策（2～3 年）、中期的対策（10 年以内）、長期的対策）つけです。





## 5. 意見発表

### 1 グループ

川奈のこの緑の線と、青の線、要するに、ここからこの汐吹へ行く道と上へ行く道、この間は大体平坦。あとは、この家が建ってる方へ行ければ幼稚園の方へと最終的には辿り着く。上の県道へ辿り着くという、それが1番、高台へ行くには正しいわけ。だから、海の近くの人がこういう風に逃げると、これは平坦だからすぐ波に追いつかれる。だから、この地図で言えば、ここ等から、赤のルートに沿ってこちら側へ行けば上の上の県道へ出る。高台へ行くにはそれが1番最短距離となる。こういう所が何本かあってそれを表した。途中で階段があつたり、急な坂を上がつたりしなければ上へは行けない。で、ここは、背中に山を背負ってる。その山が崩れたりして、大木の根が半分見えている。それで、真っ直ぐ立ってないでこういう傾き方をしている。大きい地震が来れば倒れて、この道路や階段を塞いでしまう可能性があるんで、そういう所を直して欲しい。

ここも高台に行くには墓地の細い道を通ると1番早く行けるが、石塔が倒れる恐れもある。そういう危ない所がある。

子供の時に聞いたのは、この道の奥へ津波が上がって、そこの家が流された。私の家も2階屋の家が1階だけ流されて2階は落ちて、それに基礎を巻いて…そういった家は何軒かある。だから、1階の廊下に手すりのついた廊下が何軒かある。この道は奥へ行く平坦な道だが関東大震災の時はサッと津波が上がった。1回、うんと引いて…。

こういう平坦な所からすぐに上へ行けるような、傾斜は急になるがそういう道を整備したり、横の木とか崖とかを、手入れして欲しい。この前、ここの所の手入れしてくれたのでこちらの方も手入れして欲しい。

最短ルートは、こっち側の方が高いので、この地図ではここへと早く行けるような道が1番良い。



## 2 グループ

今、1 グループは、小浦の奥の話をしたので、他の所を話したいと思う。東の山口旅館とかの辺りは、今言ったように、ちょっと上がってくれば上にも行けるが、宮町周辺が一番危険だと思う。場所は、稲荷前から上がってくる階段の所に旧海蔵寺の土地があり、そこが第1避難所になっているが、そこに行く階段が危険で、特に年配の方が多く住んでる地区なのでその部分は補強するしかないと思う。

例えば、今階段で上っているが、両サイドだけスロープにして車椅子を押していけるようなタイプにするとか、あとは、電柱はあるが街灯がないので街灯を追加して欲しいとか、そういった意見が多く出た。あと、避難指示をするような掲示物の数が少ないので、それも電柱に付けたりする簡易的なものでいいのでそういうのも付けていきたい。で、できれば夜も光ってるような、夜光塗料を使ったようなものを設置して欲しいと思う。

個人的には、いるか浜に若い観光客の人が非常に多く来るが、難しい文字ばかり書いてあると見ている人がいないので、可愛い絵を使ったり、ちょっと人を馬鹿にしたようなイラストで、渋谷の方とかにそんなのがあったので…。それ、何だこれは？ってよく見の、そういう工夫も必要なのかと思った。

あと、ソフト面の方は、独居老人の方はもちろん、夫婦共に高齢の方とかもいらっしゃるが、私のような地元人間はよく分かるが、地元じゃない消防団員もいるし、青年も非常に多いので、この家はお年寄りだけとか、この家はおじいさんしかいないよっていうのが、分かるようになればいいと思うが、そこは個人情報関係もあるので、難しいと思う…。本当は若い人と年寄りの人の交流があればいいのだが、そういうソフト面なんかもこれから計画を立てていって、僕等、若い世代が助けやすい環境を作っていくのも1つの手だと思った。



#### 市から補測説明

先程、分団長の方からお話があった、避難行動要支援者っていうんですけど、要は1人、その家族だけでは避難できないような方の対応としまして、2回目の時にご説明させて頂いたんですけど、高齢者の世帯からとか障害をお持ちの方の世帯とか、そういった所の名簿を市役所の方で作ってます。で、最終的にその名簿が完成した時点で、その名簿に登載された方に対して、先程個人情報ってお話があったんですけど、その方達の同意が得られた場合にはそれを、地区の方…例えば、自主防災会長さんとか、町内会長さんとか、その辺に情報の提供ができる。警察とか、消防組織、そういった所もそうなんですけど、そういう情報提供できるような、制度になっておりますので、そういった所も今、社会福祉課という所で進めていますので、そういった時、その方達の避難行動計画とか、個別計画みたいなやつを、地区の方みなさんで作って頂くようなことに、なっていくと思いますので、またその辺はご協力頂きたいと思います。よろしくお願ひします。